



市政執行方針 (要旨)



登別市副市長 松橋 学

協働のまちづくり

市民の皆さんと対話を重ねながら、
まちの問題課題に向き合う

私は、市政運営の機会をいただい
てからの約8年間、市民の皆さんと

平成29年第1回定例会の開催にあ
たり、小笠原市長が不在ですので、
市政執行方針を代読します。

多くの情報共有を行いながら、公民
の役割分担のもと、協働のまちづく
りを推進してきました。

今日、この時まで、私がのぼりべ
つのまちづくりに携わることができ
たのは、議員の皆さん、市民の皆さん、そして職員の後押しがあつてのもの、この場をお借りして厚く御
礼申し上げます。

現在、180を超える市民活動団体が
市民活動センター『のぼりん』に登

録いただいているところでもあります。

『生きがいづくり』、『子どもを守り育てる環境づくり』など、市民活動のステージは自身の満足感を高める活動から、地域に貢献する活動へと移ろうとしています。

また、多くの市民がさまざまな市民活動に取り組み、活動の中でまちの課題や問題を見出し、個人では解決が困難な課題でも、団体間の連携の中で解決への糸口を探ることは可能です。この『のぼりべつ』に暮らす市民がまちの問題課題をそれぞれの立場で認識していただくことが『のぼりべつ』のまちづくりには必要です。

自ら主体的にまちのために活動する市民と共にまちに暮らす人々と合意形成を果たし、互いに責任感をもつてまちづくりに取り組むことが『のぼりべつ』の『協働のまちづくり』であると考えています。

今、『のぼりべつ』には、市民が集う場であり、耐震対策が必要な市役所本庁舎の建て替えや、広域ごみ処理することにより処理費用など

の軽減につながる可能性があるごみ処理施設の今後の方針、国際的な観光地としてより多くのインバウンドを迎え入れるための整備が必要なJR登別駅のバリアフリー化など、大きな決断をしなければならぬ課題が浮上しています。

平成29年度は、このさまざまな課題としっかり向き合い、市民との対話を重ねながら方向性をお示しする年となるよう、市民のため、まちのために一命を賭して、これからも『のぼりべつ』のまちづくりに市民と共にまい進していきますので、議員の皆さん、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

これから登別市に訪れる 大きな『機』に向けて

まちの活性化につながる『機』に向けてさまざまな施策を展開していく

少子高齢・人口減少社会において、市民と共につくりあげた平成37年度までを計画期間とする第3期基本計画内にまちづくりの節目となる『機』を的確に捉え、それぞれの立場で全ての世代の方が参画できる取り組みを進める必要があります。

この第3期基本計画期間中の前期5年間には、登別市のまちづくりの